

1. 柏崎平野南部の中位段丘堆積物中の藤橋40火山灰の年代層序について

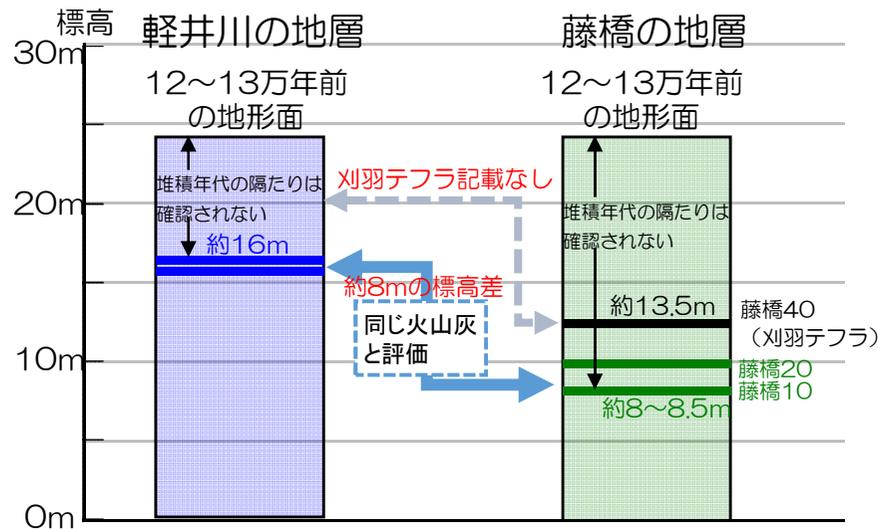
【研究会のご指摘】

- 軽井川地点の地層において、藤橋10・20(藤橋40の下にある火山灰)と同じ火山灰を新たに確認。
- 軽井川の地層には堆積年代の隔たりがなく、藤橋の地層に堆積年代の隔たりがあると東電の主張は、検証無き解釈にすぎない。

【東京電力の見解】

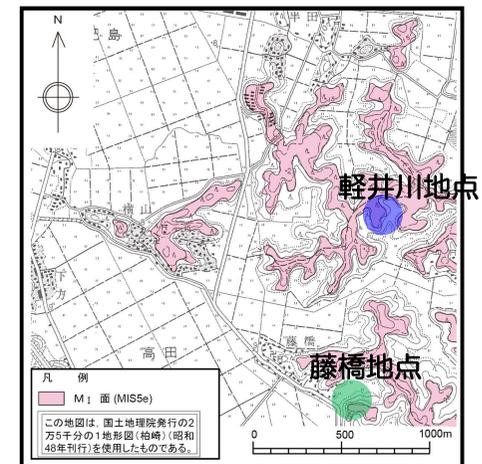
- 研究会のご指摘は、藤橋と軽井川の地層に同じ火山灰が分布することを根拠にしていると考えられる。
- しかし、①分布標高に約8mの落差がある、②軽井川の地層には刈羽テフラの記載がない、などのことから、これらと同じ火山灰であると断定することは難しいのではないかと。
- 東京電力は、発電所やその周辺でボーリングを1,000本以上、火山灰の分析を100試料以上、花粉化石等の分析を1,500試料以上実施するなど、総合的に地層の年代評価を実施している。(詳細は平成29年4月27日お知らせ済み)

図1 軽井川・藤橋の地層 (研究会のご指摘)



※赤字は当社の見解

図2 軽井川・藤橋の位置



2. 大湊砂層の堆積過程と中子軽石火山灰の年代に関する非科学的解釈

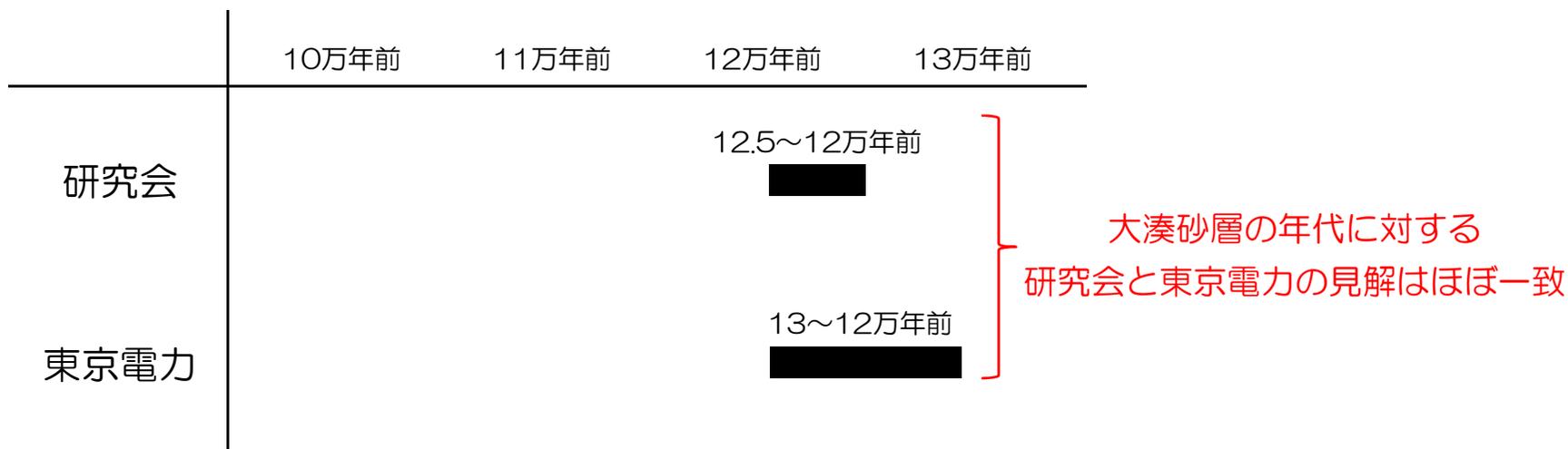
【研究会のご指摘】

- 大湊砂層は12.5～12万年前の堆積物と考えるのが妥当。
- 大湊砂層内にある中子軽石層が13万年前の堆積物とする東電の主張は誤り。

【東京電力の見解】

- 大湊砂層は13～12万年前の堆積物と考えており、研究会の見解とほぼ変わらない。
- なお、火山灰の評価では千年単位の誤差は一般的。

図3 大湊砂層の年代に対する考え方



3. 地殻変動を考慮しない段丘形成過程の非科学性

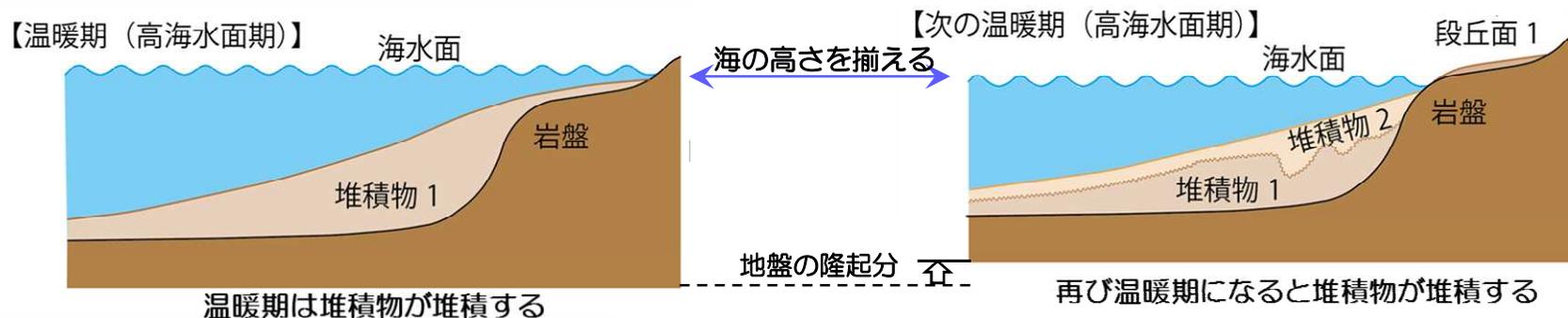
【研究会のご指摘】

- 地層の段丘化では、地殻変動を考慮に入れない形成過程の解釈は成り立たない。従って、東京電力の解釈は基礎的知識を欠いた非科学的な解釈である。

【東京電力の見解】

- 段丘の形成過程図は、地盤の隆起を考慮して作成している。
- ご指摘を踏まえ、今後は、地盤の隆起を図示するか、「地盤の隆起を考慮した」旨を明記する。

図4 これまでの作図における地盤隆起



平成29年4月27日 柏崎平野周辺の地層の年代について P.9より抜粋・加筆